

## 旧約聖書を読んで感じること (99) 最後の女預言者 フルダ

旧約聖書には数名の女預言者が登場します。指導者として活躍したのはモーセの姉・ミリアムです。アロンの姉である女預言者ミリアムが小太鼓を手にとると、他の女たちも小太鼓を手を持ち、踊りながら彼女の後に続いた。(出 15:20) また、カナン之地に入ってから裁き人であり、戦いの指揮も取った士師デボラがいます。ラピトの妻、女預言者デボラが、士師としてイスラエルを裁くようになったのはそのころである。(士 4:4) 彼らは民の姉、民の母として尊敬され、親しまれています。

ユダ王国の末期に登場するのがフルダです。偶像を祀っていた折には、律法の書は不要なものです。祭司たちの中にはいつか再び主を礼拝する時を信じて、人目につかないように神殿のどこかに隠した者がいたのです。エルサレム神殿で発見されたモーセの律法の書を読んだ王ヨシヤは裁きの言葉に怯え、「我々の先祖がこの書の言葉に耳を傾けず、我々についてそこに記されたとおりにすべての事を行わなかったために、我々に向かって燃え上がった主の怒りは激しいからだ。」(列下22:13)とその言葉の意味を預言者に尋ねるように命じます。祭司たちはエレミヤではなくフルダのもとへ出かけました。激しく民の罪を糾弾するエレミヤに尋ねたりすると、主の怒りに怯えるヨシヤの苦しみを増す言葉を聞かされるのではないかと、祭司たちは心配して、フルダのもとへ行ったのでしよう。

祭司たちは事情をフルダに説明します。

祭司ヒルキヤ、アヒカム、アクボル、シャファン、アサヤは女預言者フルダのもとに行った。彼女はハルハスの孫でティクワの子である衣装係シャルムの妻で、エルサレムのミシュネ地区に住んでいた。(列下 22:14)

彼女は由緒正しい家の嫁であり、王宮の衣装係という大役を担う夫の妻ですから、世の人々の評判も良く、信頼も厚かったことでしょう。伝説によれば、学識が高く、女子のための学校を持ち、聖書の言葉を教えていたということです。また、聖書の巻物の真贋性を見極められる力を持っていたということです。現在もエルサレムにはフルダの門、フルダの墓跡があります。

フルダははっきりと「主はこう言われる。見よ、わたしはユダの王が読んだこの書のすべての言葉のとおり、この所とその住民に災いをくだす。」とこの律法の書が本物であることを告げました。また

フルダとヒルキヤ Andrea Mantegna

偶像礼拝をしたことについての断罪を伝えました。けれども、次いで、「主の心を尋ねるためにあなたたちを遣わしたユダの王にこう言いなさい。あなたが聞いた言葉について、イスラエルの神、主はこう言われる。わたしがこの所とその住民につき、それが荒れ果て呪われたものとなると言ったのを聞いて、あなたは心を痛め、主の前にへりくだり、衣を裂き、わたしの前で泣いたので、わたしはあなたの願いを聞き入れた、と主は言われる。それゆえ、見よ、わたしはあなたを先祖の数に加える。あなたは安らかに息を引き取って墓に葬られるであろう。わたしがこの所にくだす災いのどれも、その目で見ることはない。」(列下 22:18-19)

フルダはヨシヤの悔悛と謙遜を知り、民への裁きだけではなく、ヨシヤへの救いをも伝えたのです。祭司たちはフルダの言葉を王に報告しました。フルダの預言の通りにやがてユダ王国は滅亡し、荒れ果て呪われたものになります。滅亡する 22 年前に、ヨシヤは戦の弓に倒れ、安らかにとはいきませんでした。息を引き取り、墓に葬られました。

フルダはヨシヤの「主の前にへりくだる」姿を見て、高く、あがめられて、永遠にいまし／その名を聖と唱えられる方がこう言われる。わたしは、高く、聖なる所に住み／打ち砕かれて、へりくだる霊の人と共にあり／へりくだる霊の人に命を得させ／打ち砕かれた心の人に命を得させる。(イザ 57:15)というイザヤの言葉を知って、信じていたからこそ、ヨシヤに告げることのできたのではないのでしょうか。